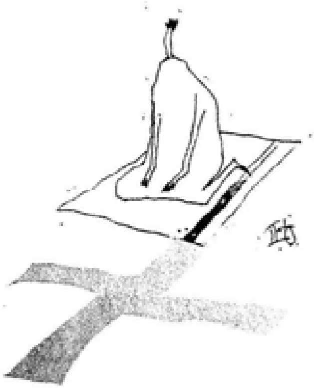
万能カード

第3編2章

信仰についての定義とその固有性。



「信仰は私たちに向けられる神の御心を確実に知る知識であり、この知識はキリストにあって無償で与えられる真実で希望に満ちた約束を根拠としており、その知識は聖霊を通じて私たちの知性に啓示され、私たちの心に証印されるのです」。繰り返して言えば、信仰の万能カードは父なる神がキリストにある希望に満ちた約束のみ言葉から作られ、聖霊を通して私たちそれぞれに与えられるものです。

近頃の日本はカード時代とも呼ばれるように町には様々なカードが出回っています。今はたった一枚のカードでその人の身分を証明できることはもちろんのこと、電車に乗ることも、買い物をすることも、電話をかけるにも、飛行機に乗るときでさえも使用できるような時代となりました。カード万能の時代がやってきたと言ってよいでしょう。ところで私たちの信仰は万能カードに似ていると言えます。信仰は神様が私たちに与えようとしてキリストに委ねられたすべての恵みを受けることができる唯一で、十分な手段だからです。

第１節　偽の信仰に欺かれてはいけない

実は偽物の万能カードがこの世界には出回っています。それは本物によく似せて作られているので間違えないように注意しなければなりません。その中で最も代表的な類似品はローマカトリック教会の迷信によって作られたカードです。彼らはこのように主張しています。「私たち罪人の聡明さは闇に閉ざされて、何も理解することができない。そのためまずその無知を認める必要がある。そして次に教会を信じよ。そこから信仰は出発する」。信仰の根拠は無知でなければならないと言うのです。彼らは無知を信仰だと賞賛しているのです。この偽カードにはみ言葉に換えて「教会」というレッテルが貼られています。教会の権威と判断に無条件で同意し、謙遜に従うことこそがよき信徒となる方法だと言うのです。これは簡単そうに見える道ですが正しい信仰への道ではありません。真の信仰は教会に絶対服従することではなく、み言葉を通してキリストを確信するという聖霊の働きかけにあるからです（ヨハネ 17：3、ローマ 10：17)。

もちろんある迷信は真の信仰に至るまでの一時的な準備となることもあります。福音については全く知らないが、奇跡を見てキリストを信じた人たちの場合のようにです。しかし、彼らは真理を学ぼうとする熱意を持ち、その教えを受けてやがて真の信仰に入ることができました（ヨハ

ネ 4：42、50、53)。そして形式的な信仰と言う偽カードがあります。それはうわべだけは信仰のように見えるものです。

例を挙げれば、神を愛しても信じてもいないのに、自分の信念によって熱心に教会に通い、聖書の教え通りに賛同して、しばらくは熱心に福音に献身する場合です。しかし、実際には神を愛しても恐れてもいませんから、そのような状態では救いのみ言葉を真実に信じることはできません。このような人たちは外面においては神に対して非難を向けることがありませんが、決して神様を敬っている敬虔な人々とは言えないのです。

魔術師シモンの場合のように彼らの心には信仰の生きた根がまったく下ろされていません（使徒 8：18；ルカ 8：6、7、13)。彼らは自分に偽って信仰を演じているにすぎないのです。また一時的な信仰の偽カードがあります。しばらくの間、彼らは真の信仰とある程度は似通った同じ感動を覚えることがあります。このようなものを「共通の信仰」（真の信仰との共通点がいくぶんかは見られるため）と呼びます。自分自身も真の信仰を持っていると考えているからです。しかし、それ以上の進展を見ることができません（ヘブライ 6：4〜6；ルカ 8：13)。

そしていつも混乱した状態から抜け出すことがありません。実体の伴う確信がなく、雲を追うような信仰です。そのために結局は恐怖と絶望に陥るしかありあせん。やはり偽物の信仰にすぎないのです。イエスはこのような者を信用されることはありませんでした（ヨハネ 2：24、25；第一テモテ 1：5、19)。神はしばらくの間、彼らの心に慈しみを施し、恵みを味わうことができるようにされ、救いの光で照らされます。しかし、それはしばらくの間だけのことです。結局、捨てられてしまうのです。もちろんその責任は彼ら側だけにあります。彼らの堕落した本性が神の恵みを拒絶させるからです。真の信仰を持った者たちは信仰の進展が見られ、少しづつその確信が豊かにされていくのです（ガラテヤ 4：6；ローマ 8：15；第一ペトロ 1：23)。しかし、天の父が植えなかった信仰はみな抜き取られてしまうのです（マタイ 15：13)。

第 2 節　真の信仰はみ言葉の上にだけ根を降ろしている。

み言葉と信仰の関係は太陽とその光線の関係に似ています。互いに離れることがありません。信仰と言う万能カードはみ言葉と言う材料からだけ作られています。信仰の中心的な関心は神の本性がどのようなものであるかと言うところにあるのではなく、この神が私たちにとってどのような方となられたのかと言うところにあるのです。また、神の真と慈愛を確信して、神の存在だけではなく、神の御心を知ろうとするところにあります。このようなものすべてはただみ言葉を通してだけ知ることができるのです。

ですから信仰は無知から出発する迷信ではなく、み言葉に対する真の知識と確信から出発するものなのです（詩 55：3；ローマ 10：17；ヨハネ 20：31；第一テモテ 4：6；第二テモテ 3：14、15)。真の信仰はこのようにみ言葉によってだけ形作られ、維持され、増進されるものです。み言葉を離れた信仰は結局はだめになってしまいます。み言葉を取り去ってしまえば、信仰もなくなってしまうからです。

そして信仰はキリストにあって恵みを与えてくださる神の約束のために生まれます。もし、私たちが聖書を読みながらそこに神の怒りと罰だけを見ているならば、そこから逃げ出したくなるだけで信仰は生まれません。しかし、信仰は神を見いだすことです。私たち罪人を赦し、救いを与えてくださる慈しみに満ちた神の約束を聞いて、驚きにふるえながらも神の前に大胆に出て行

くことなのです。

本来、神は私たちがしなければならないことを律法に定められました。しかし私たちの力ではその律法をどうしても守ることができません。ですから私たちに残されているのは絶望と神の怒りと罰に対する恐怖のほかありませんでした。そこで神は私たちにこのような悲惨な災いから救い出すことのできるただ一つの道を約束されたのです。その道こそイエス・キリストです（ヨハネ 14：6、17：3)。ですからキリストは私たちの信仰が向かうべき道（目標）であり、同時に歩むべき道（手段）なのです（第一ペトロ 1：21)。

ここで信仰についての定義をしてみましょう。「信仰は私たちに向けられる神の御心を確実に知る知識であり、この知識はキリストにあって無償で与えられる真実で希望に満ちた約束を根拠としており、その知識は聖霊を通じて私たちの知性に啓示され、私たちの心に証印されるのです」。繰り返して言えば、信仰の万能カードは父なる神がキリストにある希望に満ちた約束のみ言葉から作られ、聖霊を通して私たちそれぞれに与えられるものです。

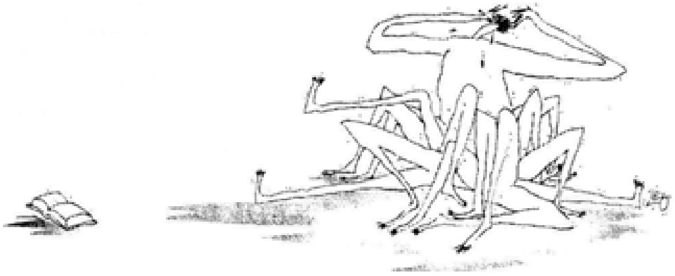
このように信仰とみ言葉の関係が密接であるために聖書の様々な箇所で信仰を敬虔に対する健全な教えと同一視させています（第一テモテ 3：9、4：1、6：20、21；第二テモテ 2：16、3：8)。また信仰をすばらしい知識とも語っています（フィリピ 3：8)。しかし、信仰の知識はふつう、私たち人間の感覚的な知覚で知りうる事柄に関する知識や理解とは全く違っています。信仰は感覚をはるかに超越したものであるために信仰に到達しようとすれば私たちの心それ自体を超越しなければなりません。

心は信仰に到達するときでさえも、その感じるものを理解できません。しかし、理解できないものを信じるときにはその信念は確実にされるために、いかなる人間的な力で知覚するときよりもさらにたくさんのものを理解するのです。ですから信仰の知識はすべての理解力を遙かに超越してあまりあるものなのです（エフェソ 3：18、19)。聖書では信仰を知識あるいは認識とも言っていますが、この認識と知識は合理的な論証によって導き出されたものではなく、神の真理によって感化されたものなのです（エフェソ 1：17；第二ペトロ 2：21、第一ヨハネ 3：2；第二コリント 5：6, 7)。信仰の知識は理解することではなく、確信することです。そしてこの確信から世に勝利するところの力が生じるのです（エフェソ 3：12)。

第 3 節　聖徒の信仰も揺れ動くことがある。

聖徒たちが持っている確信は父なる神の愛に対する確信です。善なる父はただ愛だけを根拠に私たちに相対し、私たちに約束されたことを堅く信じさせるのです。この確信が私たちの良心に平和を与えます（ローマ 5：1)。神の審判の座を恐れることがないようにさせ、天の御国を受け継ぐことは確かであることを信じさせ、それを誇りとさせてくださるのです（ローマ 8：38、39)。

信仰の万能カードにはこのように天国が賞金として入力されています。おどろくべきことです。しかしながら聖徒たちのその偉大な信仰もこの世に生きる間はたびたび揺れ動かされます。これもやはり驚くべきことです。この



世に生きる間は彼らの持っている信仰には決して疑う心が起こらなかったり、不安が襲わないということはないのです。

聖書に記録された人物の中でダビデよりもその信仰が深かった人はいないと言えるかもしれません。しかし、ダビデのある告白は私たちを驚かせるのです。彼は酷い落胆と不安を感じました（詩 42：5、11、43：5)。さらにひどいときには神の真実な愛を疑うこともありました（詩 31：22, 77：9)。聖徒たちは数々の試練と攻撃を受けます。ある時には心を大きく揺り動かされ、葛藤を感じてもいるのです。

特に良心が罪の重荷に苦しむときには落胆もしますし、不安も感じ、自分を責め、うめき、酷い猜疑心と恐怖に捕らえられることもあります。つねに聖徒たちの心の内に潜む不信仰はそのようなものを武器にして聖徒たちの信仰を打ち倒そうとするのです。神が私たちを憎み、敵対して私たちを助けてはくれないと信じさせようとするのです。これも信仰といえば信仰です。しかし、神の愛を絶対に信じることのない信仰です。

しかし聖徒たちの葛藤と心の揺れ動き、恐れは結局すべて鎮圧されます。そして平和が与えられ、さらに堅く、光に満ちた信仰に進展するのです。聖徒たちがそれぞれ感じる「恐れとおののき」（フィリピ 2：12, 13）は聖徒たちを完全に倒すことはなく、反対に完全な救いに至るようにさせるのです。聖徒たちは聖書で不敬虔な者たちが罰せられた記録を読むと、恐れとおののきを感じますが、このような恐れは敵や奴隷が持つ恐れではなく子が父に対して感じるものなのです。

父に怒りを向けることを彼らは地獄に行くよりも憎み、恐れるのです。そしてこの恐れは聖徒たちの気力を完全に倒してしまうことはなく、さらに注意深くさせ、そして謙遜にし、さらに偉大なる神を見上げさせてくれるのです。結果的に聖徒たちはすべての戦いから無事に帰還して、新たな力を受け、さらに新しい戦いに出て行くのです。一千回攻撃されても結局は勝利して全世界を征服するようになるのです（第一ヨハネ 5：4)。

第４節　聖徒たちの信仰は終わりに至れば十分な効果を得ることになる。

聖徒たちの信仰が様々な攻撃を前にしてたびたび揺り動かされるときもありますが、完全に挫折することは絶対にありません。むしろそうなればなるほど信仰が堅くされると言う効果があるのです。つぎのようないくつかの種類の保護者たちが聖徒たちにはついているからです。最初に約束のみ言葉です。み言葉は私たちの弱って、病んだ信仰に欠かすことのできない良薬となります（詩 119：43, エフェソ 6：16)。聖徒たちは弱り、揺れ動かされるたびに信仰のみ言葉（ローマ 10：8）を食べて新らたに立ち上がるのです。み言葉が変わることのない神の愛を約束してくれているためです（詩 36：5、86：5, 100：5, 143：5)。

第二はキリストです。キリストは私たちから遠く離れておられる方ではなく、私たちの内におられ、私たちと一つとなってくださいます（ヨハネ 17：23；エフェソ 2：12, 13；第一コリ 3：16)。私の信仰はキリストの信仰だと言うことができるなら、私たちは心配することはなくなるのではないでしょうか。

第三に聖霊です。み言葉はただ聖霊を通してだけ私たちの信仰に効果を現します（第二テモテ 1：14；ガラテヤ 3：2、14；ヨハネ 6：65；14：17)。そして私たちはただ聖霊を通してだけキリストの前に出て行くことができるのです（ヨハネ 16：13；第一コリント 2：10, 16；エフェソ 1：13, 14；第二コリント 5：5；第一ヨハネ 3：24；4：13)。

第四に希望です。信仰が真の愛を起こさせるように信仰は真の希望を抱かせます。信仰は神とその約束を信じるもので、希望はその信じるものを期待させるのです（ハバクク 2：3；イザヤ 8：17；第二ペトロ 3：8)。たとえば信仰は私たちが永遠の命を受けたことを信じ、希望はその永遠の命がいつか私たちに現されることを期待させるのです。信仰は希望を抱かせ、希望は信仰に力を増し加えます。希望は信仰が回復して、新しくされるように助け、信仰を生き生きとしたものにします。結局、信仰は希望の手をつかんで天国に入っていくのです。信仰という万能カードはいつも希望によって修繕されていると言えでしょう。

結びの言葉

万能カードは天国で父なる神が発行してくださり、それには御子イエス・キリストの名が記されていています。またそれは聖霊が私たちに与えてくださるもので、み言葉によって作られていて、いつも希望によって修繕されるものです。類似品にだまされないようにしましょう。そしてあなたの万能カードを服の中にしまっておくのではなく、十分に使いこなすようにしましょう。